

# 14日、赤穂浪士討ち入り 義士祭博多が元祖



赤穂浪士の討ち入りが行われた十月十四日に毎年、東京都港区高輪の泉岳寺で開かれる「義士祭」が、福岡市で始まったことはあまり知られていない。一九〇八(明治四十一年)の同日、同市博多区千代の崇福寺で行われた「第一回義士会」がその起源だ。第一回義士会から百年目に当たる今年、それにちなんだ催しも計画されるなど、にわかに注目を集めている。

(博多まちなか支局・山路健造)

## 1908年、九州日報に掲載

第一回義士会は、当時の九州日報(西日本新聞社の前身の一つ)社長兼主筆の福本日南(一八五七-一九二二)が提唱した。福本は、著書「元禄快談録」によって国民的な忠臣蔵ブームの火付け役となったとされる。

〇八年十二月十六日の同紙は、十四日の義士会の様子を「黒田家御菩提所(崇福寺)」に、今日、一百年前の義勇者を弔はんとて、遠近より



福本日南

〇八年十二月十六日の同紙は、十四日の義士会の様子を「黒田家御菩提所(崇福寺)」に、今日、一百年前の義勇者を弔はんとて、遠近より

來集するもの、老若男女併せて四百を算ふるに到ったと記載。福本や東郷福師(聖福寺住職)が講演し、般若湯(酒)とかゆを味わいながら、十五日未明まで浪士の忠孝について語り合ったと

## 提唱者の志 泉岳寺で継承



翌一〇年十二月十五日付の同紙は「理想化した義士の事蹟」の見出しで、四十七士をめぐる逸話の信ぴょう性を疑う文章を掲載。赤穂浪士を語ることは「社会教育上無用」だと説いた。

福本が最初の義士会を

福本自身は東京に移っても赤穂浪士の顕彰を続け、二年に研究団体を設立した。その後継である財団法人中央義士会(東京)が現在の、浅野(東京)が現在、浅野老師が「宋西、仙屋さん」に見る聖福寺」と題して講演する。定員二百人参加費千円。参加希望者は二〇〇七年の会〇九〇二(737)5430。

その文言通り、九州日報は〇九年も同じ日に崇福寺で義士会があり、約五百人が集ったと伝える。ところが、同年末に福本が九州日報社長を辞して上京したのを機に、事情は一変したようだ。

福岡市内では、毎年十二月十四日に南区寺塚の興宗禅寺通称「穴観音」で福岡義士会が催す義士祭が知られるが、これは三五(昭和十七)年に篤志家の呼び掛けで始まった。福本の義士会とは無関係という。

第一回義士会から百年目の今年、福岡の先人の業績を研究する「二〇〇七年の会」(緒方世享子会長)は十四日午後五時半から、福岡市博多区御供所町の聖福寺で記念行事を開く。福本の人となりに触れ、第一回義士会と同寺住職が話した故事にちなんで、細川白峰老師が「宋西、仙屋さん」に見る聖福寺」と題して講演する。定員二百人参加費千円。参加希望者は二〇〇七年の会〇九〇二(737)5430。



## 郷土の語り部・神田紅が義士伝を語ります。

### 福岡義士祭

主催：福岡義士会 TEL092・511・4231(大池公民館内)

◆日時 平成二十九年十二月十四日(木) \*参加無料

十一時 祭典・法要(十時半 献茶)

◇当日は数々の奉納行事が行われます

◆会場 興宗禅寺(穴観音) 福岡市南区寺塚二丁目二十二-11

\*十二時頃 奉納講演 赤穂義士伝より「南部坂雪の別れ」：神田 紅

金印倶楽部は郷土の宝を未来につなぎたいと、金印大使・神田紅が義士伝を語り続けています。

講演師 神田 紅(かんだくれない)  
 福岡出身、修猷館高校卒、早稲田大学中退。昭和54年、二代目 神田山陽師匠に入門、平成元年真打昇進。郷土に縁ある先人の“スピリッツ講演”を全国に世界に広めたいとの熱い思いを持つ。講演協会会長。平成18年、国際ソロプチミスト福岡より女性栄誉賞受賞。平成27年度 福岡市民文化活動功労賞受賞。